

ミッションの保護用添加剤 “リキテックM”

“リキテックM”とは？

リキテックMは、今までレースなど酷使される世界で使用し実績を積んできました。リキテックMは、自動車やバイクよりも遥かに大トルクで高熱の摩擦熱が発生する大型の工業用機械や重機で使用されているものを自動車やバイクにも使えるように改良した新しい商品です。リキテックMは、基本的に添加剤が入っていない鉱物油にフッ素樹脂をまぜ混ぜこんだものです。ミッションオイルに添加することにより、ミッションケース内をオイルと循環し各 부품の金属部の滑り性を向上させ、ドライスタートによる金属剥離を防ぐとともに、ギアの歯飛びや構成パーツの延命効果、ミッションのフリクションロスを減らす新しい添加剤です。

今迄、フッ素樹脂は摩擦係数が氷の次に小さい上に酸化しない良いものと解っている反面、他の物質との混合性が弱くオイルの中ではすぐに沈殿し凝集すると言う難点がありました。最近のナノテクの発展と独自の技術でオイル中でも混合し分散するように改良出来ました。

2012年11月から色々なカテゴリーのレース車両や商用車、街乗りの自家用車から通勤車等でテスト使用してきました。皆さん、ギアの入りがマイルドになり油温が低い時でも上がりすぎている時でも、シフトフィーリングが向上し、特にギアが入りにくいオイルが冷えている時にでも、違いを体感してもらえたり、ミッションの抵抗が減る事により低速域でのトルクの違いが出ていると言っただけです。

2013年からS耐でテスト使用を始め、真夏の富士スピードウェイでの長時間使用では、「油温が高めになってもシフトフィーリングが渋くならなかった。」と言って頂きました。又、同じく真冬の北海道の寒冷地での長期テスト使用でも、皆さん「油温が低くてもギアの入りがいい！」とよい評価をいただきました。

ミッションが弱いと言われている86/BRZレースでも2015年からテスト使用を始め、使用されたチームは今年、プロクラス・クラブマンクラスシリーズチャンピオンを獲得されました。

リキテックMは安全性にも全く問題はありません。フッ素樹脂自体は、330度以上で熱せられ融解しない限りは、他の物質に変化しませんし、他の物質への攻撃性もありませんのでミッション本体や付属部品への腐食や浸食は考えられません。もちろん、プラスチックやゴム製品などの硬化や劣化を促進するものでもありません。尚且つ、目詰まりや噛み込みの原因にならないよう、リキテックMに含まれるフッ素樹脂の粒子は大変細かいものになっています。以上のようなことから、これまでリキテックMには不具合などの報告やトラブルはなく、安全性にも自信を持っております。

